

春に少なく夏に多いニホンモモンガの子の数

九州支所:鈴木 圭、安藤 裕萌

リスの仲間であるニホンモモンガは、夏には乳頭の数に見合った数の子を産むものの、春の子の数はそれよりも少ないことが分かりました。このような子の数の季節的な違いは他のリスにはない珍しい特徴です。

■ニホンモモンガの子の数

日本には樹上で生活するリスの仲間であるニホンモモンガ(写真1)が生息しています。このニホンモモンガの子の数の特徴を明らかにするために、国内外の51件の文献を基にニホンモモンガを含む14種のリスたちの2,363回分の出産データを集めました。その結果、ニホンモモンガは季節によって子の数が違い、夏には平均5.3頭の子を産むのに対し、春は2.1頭と少ないことが分かりました(図1)。

■リスの仲間の子の数

リスの仲間は大きく2つのグループに分けることができ、1つはプレーリードッグやシマリスといった地上や地中で生活する地上性リスです。もう1つは、一般に想像される木の上をちょろちょろと走り回るリスや空中を滑空するモモンガのような樹上性リスです。実は、リスの子の数は地上性と樹上性で大きく異なることが知られています。地上性リスは1回の出産でおっぱいの数(乳頭数)の約半数の子を産みます。これは「2分の1ルール」といわれ、多くの哺乳類がこのルールに従います。一方で樹上性リスはこのルールに従わず、乳頭数とは無関係に1回の出産で2〜3頭の子を産むと言われています。

集めた出産データをみると、地上性リスは6種で、乳頭数は8か10でした。そして1回の出産で産まれる子の平均は4.2から6.5頭で(図1)、先に示したルールに従っています。一方でニホンモモンガ以外の樹上性リスは7種で、いずれも乳頭数は8でした。そして産まれてくる子の平均は1.6から3.3頭で(図1)、従来から言われていた通りルールには従っていません。

■ニホンモモンガは「2分の1ルール」に従う?

では、ニホンモモンガの子の数について考えてみます。ニホンモモンガの乳頭数は10なので、ルールに従うなら1回の出産で5頭の子が産まれるはずですが、

実際にニホンモモンガの夏の子は平均5.3頭でした。驚いたことに、ニホンモモンガは樹上性リスでありながら「2分の1ルール」にしっかりと従っています。とはいえ、春の子の数は2.1頭だったので他の樹上性リスと同様にルールには従いません。つまり日本には、樹上性リスと地上性リスの両方の特徴を持つニホンモモンガという世界的にも珍しいリスが生息しているのです。

研究資金

・本研究の実施課題「森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化」

参考文献・サイト

Suzuki, K. K. and Ando, Y. (2024) Litter size of Japanese flying squirrels *Pteromys momonga* varies seasonally: An intermediate pattern between arboreal and ground squirrels. *Journal of Vertebrate Biology*, 73, 24033. DOI: 10.25225/jvb.24033

プレスリリース (2024)「おっぱいの数と子どもの数—春に少なく夏に多いニホンモモンガの子の数—」<https://www.ffpri.affrc.go.jp/press/2024/20240828/index.html>



写真1 巣箱から顔を出すニホンモモンガ

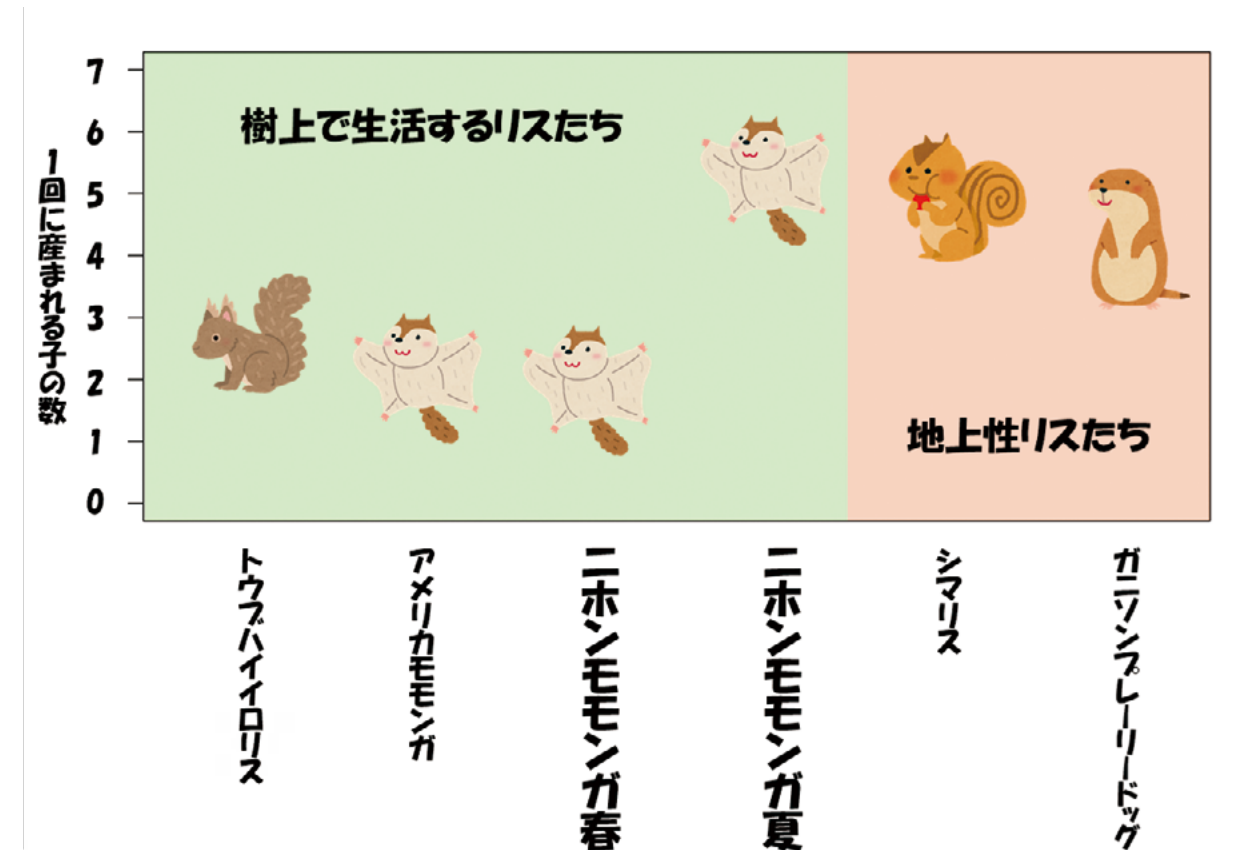


図1 ニホンモモンガを含む代表的なリスの1回の出産で生まれる子の数
(各種の生活史や特徴をよく捉えたイラストをフリー素材サイト「いらすとや」から選びました)